

大妻同窓会福島だより



ご挨拶

大妻同窓会福島代表 武藤みや子

大妻同窓会福島の会員の皆様、いかがお過ごしですか。

今年度の総会も会員の皆様方のご協力を頂き、無事終了することができました。

総会に引き続き、郡山女子大学短期大学部副学長の斎藤美保子先生から「美と生活」と題してメタルビーズ刺繍の講演をいただきました。出席された会員の方からは、「在学中メタルビーズのハンドバックを作りました」という貴重なお話を伺うこともできました。

また、例年の事です、大妻コタカ記念会の井上小百合会長にはご多用中にも関わらずご出席

頂きましたこと、心より御礼申し上げます。記念会や大妻学院の状況をお話頂けることは、私たち地方の同窓生にとりましても大変喜ばしいことと存じます。

そして、嬉しいことに今回の総会には新たに加入されました2名の方にも出席していただき、親交を深めることができました。

これからも、地方同窓会ならではの活動を目指して歩んでまいりたいと思います。大妻同窓会福島の活動が実り多きものとなりますよう、会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

学生時代の思い出

昭和、平成…それぞれの時代を大妻で過ごした青春の思い出を4人の皆様に寄稿していただきました。

昭和42年短大被服卒 斉藤 悦子

今年の1月に上京した折に、時間があったので明治神宮、靖国神社を参拝し、母校に行ってみました。卒業して50年、当時のおもかげはありませんでしたが、母と入学式に出席し、コタカ先生のお話を聞いた事を思い出しました。“恥を知れ”は今でも心に残っております。無事に過ごしているのも在学中の教えだと思って感謝しております。

昭和50年大学食物卒 渡部 幸子

卒業して早いもので40数年。私の今までの人生の中で大妻で過ごした4年間はかけがえのない時間でした。

その中でもマンドリンクラブで活動したことは1番の思い出です。トレモロの響きに惹かれて入部しましたが、高校時代はぼ婦宅部だった私にとって、練習は厳しいものでした。毎日の放課後の練習、特に春、夏休みの合宿では朝8時から深夜まで指先のまめがつぶれるぐらいのマンドリン漬けの日々でした。しかしそれに耐えられたのは先輩や同期の仲間達、クラスの友人達、家族の励ましや応援のおかげだったと思います。今でも演奏会の緊張感や合奏の楽しさは忘れられません。

現在、趣味として細々ながらもマンドリンを続けていますが、学生時代の経験が心の糧となっています。

昭和56年大学被服卒 関口 尚美

昭和52年春、私は大妻女子大学家政学部被服学科に入学しました。糸巻の校章、また建学の精神「良妻賢母」、「恥を知れ」など、懐かしい限りです。

あの頃の乙女は還暦を迎え、主人が理事長・学長を務める郡山女子大学で、理事を致しております。

創立者は、主人の母、故関口富左です。義母は、折々に、和洋の大先輩の大妻コタカ先生をお慕いし、学園を創立した話をしてくれました。遡って、木野内清子先生は、関口家に嫁ぐ私に「家政学会で一緒になの。貴方なら大丈夫よ」と、有難い言葉を下さいました。懐かしい思い出です。

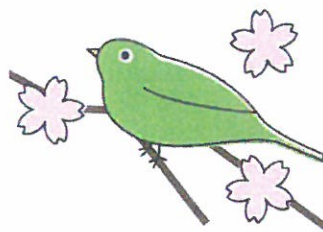
私の学生時代は、将来の指針を探す旅。迷い、悩み、戸惑いながらも、友情を育み、未来を見据えて懸命に学びました。私の原点です。母校の繁栄を、大変嬉しく感じております。今後益々のご発展をお祈り致します。

平成19年短大家政卒 白井小百合

初めての上京、兄との2人暮らし、遠くに見える富士山を眺めながら電車通学など、すべてが初めてでした。友達もできるだろうが不安でしたが、修学旅行で私の地元会津に来た事があるとの話題で盛り上がり、いつも太陽のように明るい友人たちや先生方に支えられた事、今でも感謝しています。

短大生活は、学業、すぐに始まる就活優先であっという間に過ぎてしまったという印象ですが、服飾に興味を持ち洋服作りをした事、明治記念館でのテーブルマナーに緊張した事、また、友人と学校帰りお花見やディナーをしたり、卒業旅行で京都へ行ったことなどとてもいい思い出です。

卒業して時間が経てば経つほど、あの2年間が有意義な時間だったと感じており、あの時があったから今があると実感しています。



平成30年度総会が開催されました

平成30年10月21日(日) 郡山ビューホテルアネックス 舟津

総会を無事終了することができました。ご協力ありがとうございました。

昭和38年大学家政卒 佐藤 瑞穂

今回の総会に出席して、今から50数年以上も前の学生時代を思い起こしてみました。

あれは4年生の夏休みの宿題でした。木枠にサテンの布を縫い付け、絵を描き一度提出。その後材料のビーズを決めて、全員一緒に購入したと思います。そして、その絵の通りに2本の針で（1本はビーズを通し、他の1本には糸を通したもの）布を埋めて進みます。しかし、ビーズの大きさからして1日3センチ進めたら上出来。しかも真夏のあの頃、我家には扇風機すらありません。タオルを冷たくして手を冷やし、汗が染みないように気を使ったつもりでしたが無理でした。私は銀ビーズで地を埋め、模様の花をピンク、葉をブルー、黄色等を使いました。夏休みも終わりがけた9月

の初めには何とか完成し、木枠のまま提出。仕上げは大学の方から専門の業者さんに依頼されたと思います。

1か月近くかかり完成したバッグが手元に戻りましたが、驚いたことに銀ビーズがあちこち変色し所々黒くなっていました（勿論私だけではありませんでした）。そのビーズのバッグを持ち着物で卒業パーティーに出席しました。どんな不出来なものでも汗と努力の結晶は宝物でしたが、残念なことに東日本大震災で処分してしまいました。

しかし、あの経験はビーズバッグを見る目を養ってくれたことは確かで、今思うとよくできたものと考えます。パソコンやスマホもなく写真に残すことすらできなかったことは少し残念です。



バックをご覧になる井上会長(右)



講師の齋藤美保子先生



参加された皆様



新入会員の方々

新入会員の皆様

昭和47年短大國文卒 高橋美智子

この度、武藤みや子代表との出会いで、大妻同窓会に参加できました事に感謝しています。

学生生活を振り返りますと、当時埼玉の叔父の家に下宿をしていましたので、下宿先と大学の往復で友達と過ごす時間があまりなく、少し淋しい学生生活でした。

思い出の中で、忘れられない出来事があります。それは、卒業試験の時、必須科目の中で何の科目か忘れてしまいましたが、2年B組、「福…」まで記入し、名前を書き忘れた事です。「福…」(旧姓 福地)単位を落としそうになったのですが、優しい教授の温情で、無事卒業できたのです。(今となっては笑い話ですが……)

大妻の2年間はあっという間に過ぎてしまい、もう少し勉強したかったなあと思います。私にとって大妻を卒業した事は大変誇りに思いますし、東京の大学へ行かせてくれた両親には今でも感謝しています。

大妻同窓会の皆様、これからもよろしく願いいたします。

昭和60年短大家政卒 郡司 浩子

青空が空高く澄み渡る十月、ご縁があり本年度初めて大妻同窓会福島に参加させて頂きました。伺ったところ毎年定期的に開催されていることを知り、そして先輩方との語らいの中でも大妻の歴史の深さに思い駆せると共に、先輩方の深い慈愛と包容力、実行力を感じたところです。大妻コタカ先生の「恥を知れ」の言葉、当時衝撃的でした。それは、その後の人生における一つの指針となってきました。言葉の裏側には女性としてだけでなく人間として、しなやかな中にも凛とした強さまで包括できる精神が宿っていると感じてきました。今回素敵なご縁から同窓会に入会させて頂きました。それを繋いで下さった関口尚美様、福島同窓会代表の武藤様に感謝申し上げます。これからの本会の発展と皆様のご多幸を願うと共に、長いお付き合いをどうぞよろしくお願いいたします。

大妻同窓会福島役員 (平成30年度)

代 表	武 藤	みや子	(昭45 大学 家政卒)
副 代 表	渡 部	幸 子	(昭50 大学 食物卒)
副 代 表	大 竹	美登里	(昭52 短大 被服卒)
会 計	越 尾	茂 子	(昭56 短大 英文卒)
会 計	三 浦	節 子	(昭56 短大 英文卒)
監 査	阿 部	晶 子	(昭53 短大 英文卒)
監 査	小 松	宏 子	(昭53 大学 被服卒)
相 談 役	佐 藤	瑞 穂	(昭38 大学 家政卒)

2019年度の計画

10月20日(日) 2019年度総会・懇親会
磐梯熱海温泉 四季彩 一力

随 時 役員会

2020年

3月31日 会報第12号発行

<ご 寄 付>

総会時に御祝儀、お菓子をいただきました。
ありがとうございました。

大妻同窓会福島 会費納入のお願い

◎ 年 会 費 1,500円

入会を希望される方、お忘れの方は下記にお振
り込みくださいますようお願いいたします。

加入者名：大妻同窓会福島

口座記号番号：

編集後記

また、3月11日が巡って参りました。あれから8年経ちましたが、復興はまだまだです。私たちにできることは「いつまでも忘れない」ことだと思います。

今回も会員皆様に原稿をお願いしましたところ、快くお引き受け頂きましてありがとうございました。

次年度の総会では多くの皆様方にお目にかかりますことを楽しみにしております。(武藤みや子)

編集発行人	大妻同窓会福島会報 武藤みや子
発 行 所	大妻同窓会福島
発 行 日	平成31年 3月31日
印 刷 所	有限会社 わかさ印刷 (会津若松市町北町上荒久田字崖下16-2)